BBライン

油削減装置開発・販売　世界初の特許で環境に配慮

今年10月に会社設立15年を迎えるBBラインはSDGsへの取り組みを提唱するなど、社会に一石を投じている。

その一環として、昨今の食用油の価格高騰に伴い、バイオセラミックスの力で揚げ物油の使用量を約30～60%と大幅に削減する世界初の特許を取得した油削減装置「BBFRY（ビービーフライ）」の設置を宿泊市場に呼び掛けている。

使い方は簡単。電源と、専用の薬剤は不要で、BBFRYをフライヤーの中に入れるだけ。それにより、1秒間に50兆回以上の共鳴共振波が発生され、①水のように軽く、油がサラサラで、品質の維持に貢献②カラッとジューシーに揚がる③揚げ物への油の吸収が少ない④熱効率が向上され、揚げ時間が短縮⑤油の嫌なにおいを低減し、労働環境が改善する⑥従業員の作業負担を軽減―の六つの効果を発揮する。

「これらは量子力学を応用したもので、エントロピーの高い状態（無秩序）を量子エネルギーで低い状態（秩序）に戻し持続させる作用によるもの」と同社。

特に②のカラッとジューシーに揚がる点は、吸油率が少なく、冷めてもカラッとしていておいしい仕上がりで、テイクアウト用途での活用にも最適で、廃棄ロスの低減にもつながる。

BBFRYのポイント

青山洋介社長

さらに、メンテナンスについては月に1度の煮沸洗浄のみで、効果が持続される。「生産性が求められる現場でも活用を検討していただければ」と話す。

ほかにも、従来の揚げ物での活用に加えて、焼き魚の調理にも応用が見込め、冷凍の魚であれば、3分程度揚げて、バーナーで焦げ目をつけることで仕上がるなど、利便性に優れる点も特徴。

すでに九州・沖縄エリアの飲食店を中心に、全国チェーンのレストラン、食品工場や旅館・ホテルで活用が広がり、施設の付加価値の向上と、収益の拡大に貢献している。

製品のラインアップは、長さ90×直径22㎜のBBFR―L30Aをはじめ、施設が使うフライヤーに合わせてさまざまなラインアップを用意した。

■会社概要

【本社】福岡県福岡市中央区天神１の13の21　天神商栄ビル６階
【創業】2011年10月
【事業内容】油削減装置「ＢＢＦＲＹ」の開発・販売などのＥＣＯ事業、新電力事業、キャッシュレス事業、通信事業、パートナー事業
【資本金】3000万円
【従業員数】46人

コニカミノルタジャパン

宿泊観光産業の発展に貢献する優良カンパニー

コニカミノルタジャパンは情報機器、ヘルスケア、センシングといった複数の事業を展開する、コニカミノルタグループの国内事業会社。広範囲にわたるさまざまな業種業態への特性に応じたソリューション提供を通じて、ビジネスにおける課題を見える化し、顧客とともに課題を解決することで価値を共創している。

2020年から販売を開始するタブレット1台で導入可能な独自開発の多言語通訳サービス「KOTOBAL（コトバル）」について、旅館・ホテルに対しても活用を呼び掛けるなど、活動を強化している。

同社ICW事業統括部KOTOBALプロダクトマネージャーの小笠原堂裕氏と、同マーケティングマネージャーの西原大揮氏に宿泊施設のフロントでの実態をはじめ、翻訳ツールの必要性と特徴、そして業界へのメッセージなどを聞いた。

―宿泊施設のフロントの現場で起きている課題と、英語が堪能なスタッフが多い中、なぜ翻訳ツールが必要か。

小笠原　日本は四季折々の豊富な景色が全国各地に広まるなど、世界でも有数の観光地となっている。コロナ禍以降、首都圏を中心に、訪日外国人旅行者が急増するなど活況を呈している。

しかし、旅館・ホテルの現場では慢性的な労働力不足に悩むと同時に、インバウンド対応への負担が大きな課題となっている。従来では英語での対応で事足りていたが、最近では中国語や韓国語といった英語以外を母語とする観光客の来日が際立つなど、「言葉の壁」は喫緊の課題となっており、その解決策として、翻訳ツールの需要が高まっている。

―KOTOBALをフロントに設置することで、現場でのコミュニケーションにどのような変化をもたらすか。

西原　最大の効果はスタッフの負担を軽減できるということ。チェックインなどの定型業務では翻訳ツールを使用する場面は多くないが、予約内容や金銭面のトラブルが発生した際には、意思疎通がうまく図れず、スタッフの大きな負担になっていた。これまでは多言語に堪能なスタッフの助けを求めていたが、KOTOBALを活用することで、全てのスタッフが接客を完結できるようになり、現場の労務負担の軽減にも一役買っている。

また、透明ディスプレイはフロントになじむサイズで、空間に自然に溶け込むデザインとなっている。外国人旅行者の大半が興味を示し、そこから会話が生まれて、施設の口コミ評価の向上にもつながっている。

―改めてKOTOBALの説明と、競合他社との優位性については。

小笠原　最大32言語に対応のAIによる機械翻訳と、24時間365日有人対応による遠隔通訳が利用可能。観光案内や部屋の変更などは機械翻訳で対応。ただ、トラブル対応時など、込み入った会話が発生する場面では遠隔通訳を使っていただくことで、安心してコミュニケーションが取れる。多言語に堪能なスタッフが不在でも安心して対応ができるので、現場の負担軽減にもつながる。

当初は医療機関や行政といった専門性の求められる業界に特化した翻訳ツールとして開発され、外国人や障がい者などの多様な人々を受け入れ、共生する社会の実現を目指すべく、導入を呼び掛けている。

現在では行政窓口やレンタカーの受付に加えて、温泉旅館やビジネスホテルチェーンを含む200を超える宿泊施設といった窓口業務のプロの現場で日々運用されている。

また「リアルタイムAI通訳」機能を搭載したことで、手動で画面・操作ボタンを切り替えることなく、発話内容をAIが自動で言語を判別し、リアルタイムな翻訳を実現する点もポイント。

さらに、透明ディスプレイを併用することで、お客さまの表情を見ながらジェスチャーなども交えて接客でき、会話の流れを途切ることなくスムーズな意思疎通を図れる。

ほかにも、会話の内容はデータとして蓄積されるため、「言った・言わない」のトラブルを未然に防ぐことができる。旅館・ホテルではクレーム対応などをマニュアル化し、施設のブランディングに加えて、今後の経営を左右するツールとしての活用が見込め、競合サービスと一線を画す。

人とAIのハイブリッドで、新たなおもてなしを行っていただければ。

―導入後のサポートについては。

小笠原　宿泊施設向けに特化した定着支援のプログラムを用意。「KOTOBALがあるから安心できる」をテーマに、最適な導線の提案などを通じて、顧客の目指す姿の実現を共に支援する。

KOTOBALを使ったことで、外国人旅行者の接客に自信を持てたと回答するスタッフが9割を超えた施設も存在する。

―今後の営業展開と、読者へのメッセージを。

小笠原　2月17日～20日に東京ビッグサイトで開催される国際ホテル・レストランショー（ブース番号W3―F20）への出展を予定している。実際にKOTOBALに触れて無料の翻訳アプリとの違いを体感してほしい。

KOTOBALを中央に小笠原堂裕氏（左）と西原大揮氏

情報機器開発事業 ヘルスケア事業

多言語通訳サービス、遠隔で有人対応

■会社概要

【本社】東京都港区芝浦１の１の１　BLUE FRONT SHIBAURA TOWERS10階（総合受付）
【設立】1947年10月
【事業内容】複合機（ＭＦＰ）・プリンター、印刷用機器、ヘルスケア用機器、産業用計測機器などの販売、並びにそれらの関連消耗品、ソリューション・サービスなど。新規注力事業の強化・拡充のための開発、企画、マーケティングなど
【資本金】３億9710万円
【従業員数】2849人（2025年４月現在）

KONICA MINOLTA

ただの翻訳機器ではない！
お客様満足度・従業員満足度を高めるインバウンド対応ツール

コトバル
KOTOBAL

① リアルタイム AI 通訳
訪日外国人からの細かな要望に対しても、リアルタイムでストレスのないコミュニケーションが取れることで、**満足度の高い接客を実現**します。

② 遠隔通訳（有人対応）
予約不要で通訳者を介したコミュニケーションが可能。トラブル発生時でも**従業員が安心できる体制を構築**します。

③ 従業員満足度に寄与
導入に際してはコニカミノルタのメンバーが徹底サポート。
全国での導入現場の声を反映した“使いやすい設計”にこだわり、従業員が無理なく活用できる環境づくりを支援。インバウンド対応の負担を軽減し、**従業員満足度向上に繋げる**ことができます。

コニカミノルタ ジャパン株式会社
〒105-0023 東京都港区芝浦 1-1-1
Email : kotobal_info@konicaminolta.com
ホームページ : https://kotobal.konicaminolta.jp/

KOTOBALの詳細はこちら▶

Giving Shape to Ideas